

5月号

# いっしん

平成27年(2015年)

第364号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 /FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

大いなる  
信心ぞ  
よき迷うなど  
神の御理解  
心せよ人  
甘木親教会  
初代親先生み致

甘木親教会 二代教会長 安武文雄大人 20年祭 12月23日(祝)  
加治木教会 矢野サダ子真心白萩大刀自 3年祭 7月12日(日)



御本部 天地金乃神御大祭 祭典後 4/5

## 御本部 天地金乃神御大祭

参拝

四月四日(土)～五日(日)

桜前線が九州から関西・関東へと北上しているさ中、四月四日(土)・五日(日)御本部天地金乃神御大祭に参拝させていただきます。

四月五日(日)の午前八時に加治木教会を出発させていただきます、正午には「めかりSA」に到着しました。

関門橋の九州側足桁付近にある「めかりSA」では桜の花が満開になったばかりで、関門海峡をバックにした花見を兼ねた昼食となり、名画のような風景を堪能させていただきました天地の親神様にお礼を申しながらの参拝となりました

今回は光風館に宿泊させていただきましたことができましたので、金光様のお退けお見送りの後、教祖様はじめの奥津城にもゆつくりと参拝させていただきました、夜の教話、早朝の金光様のお出ましお迎え、朝ご祈念、お届けと、おかげを蒙らせていただくことができました。

御本部天地金乃神後大祭参拝…P1～2 甘木親教会「青年の集い」…P3～6  
勸学祭…P6 鹿児島地方布教120年…P7 教会行事…P8

御本部

天地金乃神御大祭 参拜

御本部天地金乃神後大祭、四月五日(日)のご祭典は、午後からでした。そのため午前中に、金光図書館展示室(教庁一階)において開催されました「金光碧水と文化人たち」展と「地域とともに歩む金光教」展を見学させていただきました。

加治木教会参拝者の一行が展示室へ入りますと、まだ入場者が多くない時間であったことも幸いして、金光図書館長の金光英子先生が直接、貴重な展示物の内容や意味合いを丁寧に説明下さりありがとうございました。

さらに、貴重な文化人の展示品について質問をさせていただきましたと、展示品にまつわる貴重なエピソードもご説明下さり、そのお話の内容には驚かされることばかりで、まさに感動の連続となりました。

茅原基治という、一九二〇年に八百人のロシア人の子どもたちを助けた(ロシア革命から避難してきた子どもたちをウラジオストクから救い出した)陽明丸船長の貴重なお話も



として活躍される中に、率先して人種・国益を超えて人助けに役立たれたそうです。(茅原基治・陽明丸についての詳細はインターネットでお調べください)

この後「地域とともに歩む金光教」展で模型が展示してありました「金光学園記念講堂」に向かいました。

「金光学園記念講堂」は、江川三郎八という旧会津藩出身の建築家が設計した建物で、昨年国の「登録有形文化財」に指定されま

同うことができました。

茅原基治という人は、金光中学校で佐藤範雄(初代校長・芸備教会初代教会長)から薫陶を受け、当時海軍の将校

した。

さらに、九州の信奉者にとっても大切なことは、この「金光学園記念講堂」建築に使われた木材は、九州開道の祖 桂松平先生の発願で始まった「大教会所ご建築の大願」にて献納された御用材で、南九州の各地で調達された木材であることです。

当時、国の宗教局から金光教独立の条件として、人材育成施設(学校)を有することが提示され、この御用材で金光中学(現金光教学院・金光学園)の校舎が建てられました。



金光学園記念講堂

明治37年、木崎山下の元金光学中学校敷地内(現金光教本部)に竣工した講堂は、江川三郎八の設計とされ、格天井の様式の船ヒノキ造りで、同時期に建てられた県内の国の重要文化財にも匹敵する建物といわれている。

戦後、古見野への校地移転にもない、この講堂は学園の歴史と伝統のシンボルとして残したいということから、昭和31年に現在地へ移築された。

昭和63年には屋根を、平成21年には外装・内装を改修し、翌年には照明・放送・空調なども整備され、平成26年に国の「登録有形文化財」に指定された。



建物の概要

構造 木造瓦葺平家建  
面積 238㎡

# 甘木親教会 「青年の集い」開催される

甘木親教会 手続・関係教会「青年の集い」が、四月十一日(土)・十二日(日)一泊二日で開催され、加治木教会からも二名が参加させていただきました。

十一日(土)の十七時三十分からお広前で開会の御祈念が仕えられ、十八時より親先生のご教話を拝聴させていただきました。

ご教話の中では、今年度の「ハッピーニュース大賞」(日本新聞協会主催)で鹿児島県鹿屋市の「宇都電設」に採用された高校生のことについても、お話しされました。(四月初旬にテレビで全国的に数度放送)



その記事は、高校生がアルバイト先のガソリンスタンドに、給油に来る「宇都電設」という会社の作業車内がいつも整理整頓されているのを見ていて、自分もこんな会社で頑張

りたいとの思いを持ち「宇都電設」の作業員に高卒者の採用を尋ねたところから、「宇都電設」の今年度の採用予定を変えて採用されることになったということです。



このことについて「信心させていた

だく私たちのあり方を見てお道の信心を判断されることがあります。信心させていただく私たちは、いつも整理整頓というように、物の取り扱ひ方に気を付けることが大切ですが、大切です。…とお話になりました。

手続関係教会  
青年のつどい  
会場 みちわけ会館二階



# 甘木親教会 「青年の集い」信心発表

【山崎和栄先生】(発表要旨)

より



福岡南教会  
在籍の山崎和  
栄と申します。  
昨年、金光教学  
院を卒業させ

ていただき、昨年末に結婚のおかげを頂きまして、今は御本部にありますが金光教徒社で御用にお使いいただいております。

数年前に、ご霊地で開かれた「青年セミナー」で、講師の金光清治先生から『お役に立ってこそ輝く命』という講題のお話を聴かせていただき、最後に「私たちの賜っている命が輝くときはいつだと思えますか」と問われ、「お役にたつてこそ命が輝くのです」とお話されたことが大変胸に響きました。

今日も新しい命を頂いているが、その命を自分は輝かせているのだからか」と自分自身に問いただしています。



私は今年二十八才ですが、命の接ぎ穂を頂いてきての今日です。

小学校六年生の十二才の誕生日に、姉と自転車の二人乗りをして荷台から落ち、「コンクリートに頭を強打し、あわや命を落とすところでしたが、親先生の御祈念・御取次のおかげで助かったと思います。

荷台から落ちて、近所の方々が集まって来られ「この子は助からん」と口にされるほどで、意識も朦朧とした中に救急車で搬送されました。

救急車の中で目を覚まし、ようやく、自転車から落ちたことを思い出し、自分の利き腕を上げて体を確認しようと思いますが、手足が動かず、そのショックでまた意識を無くしました。

次に意識が戻ったのは、病院の救急治療室で、聴診器を当ての診察中でしたが、間もなくしてお医者さんは「特に異常がないから帰っていいよ」とのことで、その言葉を疑いました。

しかし、手足が思う通りに動くことがありがたく「我が身が我が自由にならぬものぞ」というみ教えを思

い出しながら家しました。

翌日、教会にお参りして事故のことをお届けしますと、

親先生は「神様に助けていたただいた命をお礼申しませう。神様に使うていただける氏子になりなさいよ」とのお言葉でした。

小学校六年生の私には、詳しい意味がわからないながらも、助けていただいた命であるんだな、神様に使うていただけの氏子には、どうしたらなるのかなと考えるようになって、神様に心を向けることができるようになりました。

その年の九月、呼子教会の教祖生



誕祭後の福引きは、甘木のご先代の『記しおけ 心のそこにいつまでもわが救われし そのはじめをば』というみ歌でした。

いつもなら、景品ばかりに目が向くのですが、み教えが胸に響きへ神様からのお言葉だなと思えました。さらにその四カ月後の一月三日、甘木親教会の初参拝で引かせていただいた福引きが、まったく同じみ教えでした。

そのときへこのことを絶対に忘れてはいけないなと思いつつ、神様に助けていただいた命である」とのお結界でのご理解を再び心に刻みました。その後、何の後遺症もなく中学校・高校と過こしました。

私の家は、農家で和牛を飼育していたので、将来を思い、高校の担任の勧めもあり、佐賀市にある農業大に進学し、寮生活が始まりました。

それから、畜産科で生き物を飼っており当番制作業があり、一か月に一回ほどしか帰れず、だんだんと教会から足が遠のき、自分自身で自分勝手な感覚をきたすようになって

きました。

それまでは確かに「あゝのとき、命を助けていただいた自分である、生かされている自分である」と思っていたのですが、だんだんと「時間が過ぎるときにお参りさせていただければいいか」と思うようになり、御用も、御用に自分の用事を合わせるのではなくて、自分の都合に御用を合わせるという、自分中心な考え方に陥ってきていました。

そうして大学二年、二十歳の誕生日前日の朝、通学中に橋の欄干にぶつかって車が大破する事故を起こしました。

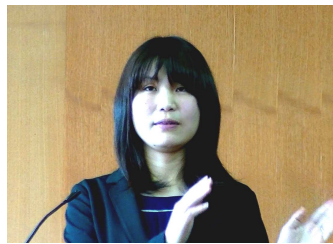
事故後、大破した車が運ばれた自動車工場に、父と荷物を受け取りに行きます、その社長さんが「ご遺族の方ですか」と言われるので「私が事故を起こした本人です」と言いますと「生きてたの？」と驚かれ、壊れ具合を見て事故死したと思っておられました。

しかし、私にはケガひとつなく、神様のお働きとお練り合わせで助けていただいたと思いました。

そのとき、「自分自身が生かされて

生きている」と「自分の考え違い思い違いであった」とことを改めて強く思いました。

その後、教会へも日参させていただくようになり、「ご理解、お話を頂く中に、神様の直接の御用に立たせていただくことを決心し、一昨年金光教学院に行かせていただきました。



金光教学院で、

ある授業で自己紹介があり「私は誕生日毎に命も危ないことがある」と話したとき、ある先生が「誕生日毎に何かあるのは大きな意味がある、学院在学中にその意味を見つけることができる」といわれました。

私も「そうだな」と思い、せっかくなご霊地で金光様のお膝元でのご修行でしたから、去年の誕生日に金光様に誕生日のお礼を申し上げてお尋ね申し上げました。

「私は、小学校六年生の時と、二

十歳の誕生日を迎えるときに命も危ないということが起こりました。それは何か大きな意味があるのでしょいか」と、すると金光様は「意味って別に」と仰られ、さらに「意味って別にとは？」とお尋ねしましたら「おかげのなかのできごとでしょう」と仰られました。

しかし、諄々とお話しを頂けるとの予想とちがひ、日々悶々としながらも学院広前で「金光様から頂いたご理解がわかりかねます、どうぞお教え下さい」とご祈念していました。そのような中、ある日の講義で、教祖様のみ教えを三つほど示されてのお話がありました。

そのみ教えの一つが、津川治雄の伝で「人間は、生まれるときに証文を書いてきているようなものである。生まれたといったら、その時に悔やみを言いに行ってもよい。それくらいのものである。どういふ災難があるとか、こういう不幸せがあるとかいうことは、決まっているのである。神様はよく「承知なのである。信心を強くすれば、大厄は小厄にしてください、小厄はお取り払いくだ

さるのである。それが、おくり合わせをいただくということである。」というみ教えでした。

私は「これは、神様からお教えいただいたな」と思わせていただき「さへこういう意味か」と思わせていただきました。

それからというもの、〈教会の親先生はじめ、周りの方々の願いやお祈りのおかげの中で、信心させていだいているからこそ、今日の自分の命がある〉ということを強くわからせていただきました。

二代金光様は「私の命が明日あるかもわからない」とまでみ教えされてありますが、ほんとにそうだなと思わせていただきます。

今日、命を頂いていることをありがたくシッカリお礼を申させていだき「神様の御用に使うていただ



班別懇談

ける」自分にならせていただきたいと思えます。

《弁表を聴いての感想》(加治木教会長)  
呼子教会では少年少女会活動も盛んで、小学生の頃から参拝されて、お結界でお取次ぎを頂き、み教えを素直に真剣に頂いておられたのでしよう。だからこそ大事故に遭われても、おかけを蒙られ、助かり、お役に立つこともできたのでしよう。ご家庭が、おかけを忘れない信心の空気に満たされていたのでしよう。よい信心家族の姿が目に見えます。



朝ご祈念



※二十〜三十才代の参加者ばかりではなく、五十才代の方も参加者も数名ありました。若い後輩を育てる勉強のため参加です。来年からは加治木教会からも年齢を問わず積極的に参加させていただきます。かねばなりません。

# 勧学祭仕えられる

四月一日  
(水) 加治木教会では

月例祭に併せて、勧学祭が仕えられました。

ご祭典ではご神前で、今日まで健康で勉強に運動に友達との交流に励ませていただけてきたお礼と、今年度もお役に立つ人へお育てをいただくべく学業に励ませていただく祈願が込められた祭詞が奏上されました。

ご祭典後、入学、卒業者に記念品が、進級者にお直会が贈られました。

今年も元気に、勉強に運動に励み友達とも仲良くして、お役に立つ人へ、お育てをいただいで行きましよう。





# 鹿児島地方布教百二十年 のお年柄を迎えて

鹿児島地方布教120年  
信奉者研修会(7/5)

小倉教会布教130年  
記念大祭(10/20)



今年、九州布教百三十年のお年柄で、小倉教会におかれましては、十月二十日に、小倉教会布教百三十年記念大祭が仕えられます。さらに、鹿児島地方布教百二十年のお年柄です。そこで、鹿児島地方連合会での取り組みについて、一月に加治木教会で、四月十五日に鹿児島教会で、連合会執行部会が開かれ、話し合いがなされました。

その結果、来る七月五日(日)に鹿児島教会において「教師研修会」と「信奉者集会」を併せた研修会が開かれることになりました。

当日午前中は、鹿児島地方の布教史に詳しい宮内政雄先生による「鹿児島布教百二十年を迎えて」というテーマでの講話、午後には信徒二名による信心発表と全体懇談が予定されています。

また、連合会で二十年前の「鹿児島地方布教百年」のお年柄にまとめられた、鹿児島地方教会連合会の教師の「霊神簿」と「霊神名簿」に、「鹿児島地方布教百年」以後の、二十一年間にお国替えされた先生方が追記されることになりました。

この「霊神簿」には、矢野政美親先生、矢野サダ子親奥様、福元フサ子先生、向江ナツ工先生の四柱のご霊神様も新たに記入されます。

七月五日(日)に鹿児島教会で開かれる「信奉者研修会」において、連合会の教師・信奉者一同でお礼を申し上げお称え申し上げるご祭事も使えられます。

## あしあと

4月

- 1 (水) ●月例祭、併せて勸学祭 10時半
- 4 (土) 〆5 (日) 御本部御大祭参拝
- 9 (木) 斎掃御用 10時
- 10 (金) ●月例祭(天神祭) 10時半
- 11 (土) 〆12 (日) 甘木親教会青年の集い
- 12 (日) 人吉教会御大祭 11時
- 15 (水) 連合会執行部会 鹿児島
- 19 (日) 大口教会・上荒田教会御大祭
- 21 (火) 斎掃御用 10時
- 22 (水) ●月例祭・共励会 13時半
- 26 (日) 甘木親教会 御大祭 第②日参拝
- 29 (祝) 若松教会 120年記念大祭
- 30 (木) 斎掃御用

## ご霊神様のおまじ

五月

- 平地ヨシ子 之霊神(1日)昭和18年
  - 松田俊夫 之霊神(3日)昭和20年
  - 福元久伸 之霊神(5日)平成9年
  - 信國道雄 之霊神(6日)平成16年
  - 庄村ヒテ 之霊神(12日)平成12年
  - 津上國臣 之霊神(14日)平成18年
  - 向江喜右衛門 之霊神(20日)昭和54年
  - 向江ハツギク 之霊神(28日)昭和47年
  - 須藤実行 之霊神(30日)平成13年
- 立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭では、ご霊前での玉串の奉てんを準備しています。

5月4日(祝) 開会 5時半

甘木親教会 布教記念祭奉祝

バレーボール大会

人吉教会・宮之城教会・多良木教会・免田教会  
合同の、南九州連合チームにて!

バレーボールができない方も、応援部隊で  
参加してみませんか?

五月三十一日(祝) 十一時

加治木教会 (前日御用奉仕)

天地金乃神御大祭 奉仕

講師 大口教会長

安武秀信先生

《御大祭》

五月五日(祝) 西鹿児島教会

五月六日(日) 多良木教会

五月十七日(日) 鹿児島教会

御大祭前信行期間

五月二十三日(土)〜二十九日(金)

御祈念・研修…午前五時十五分〜

午前十時〜

教会行事

5月

- 1 (金) ●月例祭(報徳) 10時半
- 4 (祝) 甘木親教会バレーボール大会参加
- 5 (祝) 西鹿児島教会御大祭 12時
- 6 (休) 多良木教会御大祭 11時
- 9 (土) 斎掃御用 10時
- 10 (日) ●月例祭(生神金光 大神様) 10時半
- 12 (火) 庄村家霊祭
- 13 (水) 青年会 19時半
- 15 (木) 若婦人会 13時半
- 17 (日) 鹿児島教会御大祭 11時
- 21 (木) 斎掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭・共励会 13時半
- 26 (火) 連…企画会議
- 30 (土) 御用奉仕
- 31 (日) 加治木教会御大祭

月例祭日 変更

6月

- 1 (月) ●月例祭(報徳) 10時半
- 3 (水) 親教会参拝日(参拝未定)
- 9 (火) 斎掃御用 10時
- 10 (水) ●月例祭(生神金光 大神様) 10時半
- 14 (日) 御本部教団独立記念祭(参拝未定)
- 20 (土) 斎掃御用 10時
- 21 (日) ●月例祭・共励会 13時半
- 22 (月) 併せて 加治木教会 布教64年記念祭  
(月例祭は、二十一日に変更し、  
布教記念祭に併せてお仕えします)
- 17 (水) 18 (木)
- 24 (水) 青年会 19時半
- 25 (木) 若婦人会 13時半
- 26 (金) 27 (土)
- 27 (土) 甘木親教会婦人教師会  
斎掃御用 10時
- 28 (日) 上半期感謝祭 10時半

加治木教会 バンド練習会

《できるときは、毎週水曜 午後7時半より》  
今年も練習会に参加してお役に  
立たせていただきますように。

練習のあるときは随時連絡します。